

技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

指導学級 : 2年3組 29名
指導場所 : 被服室
指導者 : 教諭 柿元 慶子

1 題材名 D 身近な消費生活と環境 「家庭生活と消費」

2 題材について

(1) 教材観

近年、環境問題と社会経済システムの在り方や生活様式が大きく変化し、私たちの消費行動と社会に与える影響について注目されるようになった。また、「消費生活センター」の相談対応件数増加が報告されるなど、消費者教育の充実が課題との指摘もある。鹿児島市の教育施策においても、「消費者教育」は重点事項として取り上げられており、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を目指し、自立的に基礎を培うことは今後の生活にとって意義あることと考える。

「D 身近な消費生活と環境」では、消費や環境に関する実践的・体験的な学習活動を通して、消費生活と環境について基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、消費者としての自覚を高め、身近な消費生活の観点から持続可能な社会を展望して、環境に配慮した生活を主体的に営む能力と態度を育てることをねらいとしている。

(2) 生徒観

生徒の実態を把握するため、アンケート調査を実施した。

【アンケート実施日 平成23年9月7日(水) 調査対象:2年3組 27名】

① あなたは、「お金」は生活に必要なだと思いますか？

とてもそう思う 20人	そう思う 7人
-------------	---------

※あまりそう思わない、全くそう思わない選択者は0人。

② (ア)の問いで上のように答えた理由を書いてください。

- お金がないと何も買えないから (大切な食料・衣服・欲しいもの・生活用品・おかし・スポーツ用品)
- 生活上必要だから
- お金がないと生きていけないから
- 野菜など自分で作れるものもあるけど、服とか肉とかは買わないといけないから
- 集金などで支払う時に払えなくて困るから
- 電気代や水道代が支払えないから
- 商売するうえで必要なもので、発行しすぎると困るから

③ 高校を卒業して、給料16万円を手に入れました。あなたは、どのように使いますか？購入したり、使ったりしたい目的の内容を、10個まで下の表に記入してください。

1 食費	6 生活用品購入
2 貯金	7 携帯(機種変更も含む)
3 洋服代	8 家賃の支払い
4 スポーツ用品購入	9 親へあげる
5 家の購入	10 遊びに使う

※アンケート時、回答数が多かった順に並べてある。

④ あなたが普段の生活で、家庭から「お金の使い方」や「お金について」よく言われていることがあれば教えてください。

- 「無駄遣いをしない。」
- 「いざという時に困るから、貯金しなさい。」

- 「お小遣いはあげるけど、そのお小遣いは親が稼いだお金だからしっかり考えて使いなさい。」
- 「買い物をするときは予算を決めて買い物すること。」
- 「使い道を考えなさい。」
- 「お金は大切だから、必要なものしか買ってはいけないよ。」
- 「知らない人にお金を渡さないこと。」
- 「金遣いが荒い！！」
- (無記入 5名)

⑤ お金を使うとき、あなたはどのようなことを考えて支出しますか。思いついただけ書いてください。

- 全てのお金を使わない(残金を考える)。
- あと先を考えて使う。
- 値段や質(安いもの・価値にあった品物か)
- 本当に必要か考える。
- あと何日分残っているか。
- (無記入5名)

⑥ 「消費者センター」を知っていますか？

はい4人

いいえ23人

①から、対象学級の調査生徒全員が「お金は必要である」と回答している。その理由として、「お金がないと生活できない」との回答が多く、お金が生活に不可欠であることは認識していることが分かる。

③以降のアンケートでは、実際に使用する場合を想定した質問を行った。③では、高卒程度の給料(16万円)を受け取った場合の使い道についての質問である。食費・貯金など、生活に「必要」な支出の方法についての回答も見られる中で、「遊ぶ」や「スポーツ用品購入」など暮らしの中であると便利な用途に対する支出についての回答が目立った。また、④⑤でお金にまつわる普段の付き合い方の調査結果から、「必要なものを買う」と回答した生徒は多かったが、「残金を考えたり、あと先を考えたりして使う」など見通しをもった使い方について回答した生徒が4名にとどまり、優先順位などは考慮して使用していない傾向が見られる。

(3) 指導観

生徒は、小学校家庭科で「物や金銭の使い方と買い物」、「環境に配慮した生活の工夫」を学習している。しかしながら、日常生活で、計画的に支出している経験をもつ生徒は少なく、使用できる金額に限度があることを考えたり、優先順位を考えた支出ができなかったりする結果、「必要なもの」ではなく、「欲しいもの」を優先する傾向も強い。

指導当たっては、授業の最初に今までの学習やこれから学習していくことが生活につながりを持ち、学習の必然性を感じられるように工夫したい。また、他者の考えや自分の考えを共有する話し合い活動を通して、表現力・判断力・思考力を高め、優先順位を考えた支出の方法を図にして表わすなど、実践的・体験的な学習活動を取り入れた問題解決的な学習の展開を通して、日常生活の中から課題を見出し、課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成やよりよい生活を創造できることを目指したい。

そこで、本授業では、ICTを活用して生活につながる導入を行い、課題意識をもたせたい。さらに、話し合い活動を通して、生活の中で「必要なもの」と「欲しいもの」を判断する力を培うとともに、使えるお金には限りがあることを知り、優先順位を考えて支出をすることを理解させたい。また、よりよいお金の使い方について自作のビデオを通して、意識を高めさせたい。

3 題材の学習目標

- 家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくすることができる。
- 家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫することができる。
- 家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な技術を身に付けることができる。
- 家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。

4 題材の指導計画 【全7時間】

時間	学習内容	学習活動	言語活動(☆)・ICT活用(◎)の工夫	評価の観点			
				興味・関心・態度	工夫・創造	生活の技能	知識・理解
1	生活に必要なものの流れ	食品の選択で扱った内容をもとにして、生活に必要なものの流れを確認する。	◎ 具体物を見せたり、ものの流れを提示したりする。	○			
2 【本時】	収入と支出のバランス	生活にかかる金銭の収入と支出のバランスを知り、本当に必要かどうか判断して、「必要なもの」と「欲しいもの」について考える。	◎ 導入でプレゼンテーションソフトを用いて、課題を考えさせる。 ☆ 優先順位を考えて支出の方法について話し合いをする。	○			
3	商品購入の流れと情報の活用	ポテトチップスのパッケージと中身の試食から表示について考え、商品購入のプロセスを知る。	☆ 商品購入のプロセスについて、グループで話し合い、適切な選択の仕方について話し合う。		○	○	○
4	販売方法と支払い方法	販売方法と支払いの方法について知る。	◎ 購入場面をプレゼンテーションソフトで提示する。 ☆ 前払いや後払いの長所と短所について話し合う。	○			○
5	消費生活トラブル	悪質商法対策ゲームを通して、消費生活におけるトラブルとその解決方法を知る。	◎ 消費トラブルの事例をインターネットで提示する。 ☆ 解決方法について、話し合う。	○	○	○	○
6	消費者の権利と責任	地域の消費生活センターなどの消費者を支える仕組みについて調べる。	◎ 消費生活センターの相談件数を提示する。				○
7	環境と消費	消費生活が環境に与える影響について考える。	◎ 循環型社会を目指した、日本や世界での取り組みについて提示する。	○	○		○

5 本時の実際 【 2 / 7 】

(1) 主題 優先順位を考えた計画的な支出

(2) 学習目標

- 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費の在り方を改善することができる。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

- 導入段階においてプレゼンテーションソフトで作成して問題提起を行い、生活につながりをもたせ、学習課題に対し、意識をもって取り組ませるような場を設定する。
- グループによる話し合い活動や考え方・理由の発表の活動により、更に得た知識をもとにして考えを深める時間を設定する。

- 生徒に書画カメラを使用して、自分の考えを発表させる場を設定する。
- 消費生活センター相談員がアドバイスをするビデオを活用し、優先順位を考えた支出の必要性について気付かせる場を設定する。
- 終末段階で、本時の学習内容を振り返らせながら、自分の言葉でまとめさせる場を設定する。

(4) 評価規準と生徒の姿

観点	評価規準	生徒の姿
関心・意欲・態度	自分や家族の消費生活に関心をもち、消費の在り方を改善することができる。	模擬家族での話し合い活動を通して、自分や家族の消費生活について関心をもち、消費の在り方を改善しようとしている。

(5) 授業の展開

(☆：言語活動, ◎：ICT活用)

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	5分	一斉	1 プレゼンテーションを見て、問題点を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使いたい用途全てに支出ができないことに気付かせ、発表から学習課題につなげられるようにする。 ・ 挙手により本時の学習内容が分かったか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ プレゼンテーションを用いた問題提起を通して、学習課題を把握させる。 ☆ ワークシートに、学習課題を記入させる。
			2 学習課題を設定する。		
展開	10分	個別	3 模擬家族を作り、お金の使い方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢やライフスタイルに応じて使い方が異なることに気付かせる。 ・ 家庭での支出の内訳についての調べ学習から、消費行動について考えさせる。 ・ 住居費・光熱費や食費など生活に欠かせない支出があることを理解させる。 ・ 必要なものとほしいものに分類させる。 ・ 優先順位を考えて、広幅用紙にまとめさせる。 ・ 収入に応じて、支出の内容が異なることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ ワークシートや付箋に模擬家族の役割や自分の考えを記入させる。 ◎ 書画カメラを活用して、調べてきた内容を発表させる。 ◎ 以心伝心板を書画カメラで映す。
	5分	一斉	4 家庭のお金の使い方について発表する。		
	5分	個別 ↓ 班	5 どのようにお金を使えばよいか考える。		
	10分	班	6 優先順位を考えた家族のお金の使い方について話し合う。		
開	5分	一斉	7 話し合った内容を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使える金銭には限りがあることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 根拠をもとに、優先順位を考えたお金の使い方について、広幅用紙にまとめさせる。
	5分		8 消費生活センター相談員のアドバイスビデオを見る。		
終末	5分	個別	9 本時の授業を通してわかったことや、感じたこと、考えたことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに自由記述でまとめることで、生活への意欲を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ ワークシートに自分の言葉でまとめさせる。
			10 次時の内容を知る。		

(6) 検証の方法

- 学習意欲
 - ・ 発問に対する，生徒の表情などを観察する。
 - ・ 生徒が自分で学習課題を設定できたか確認する。
- 言語活動
 - ・ ワークシートなどの記入状況を机間指導及び授業後に確認する。
 - ・ 以心伝心板の活用状況を期間指導で確認する。
- ICT 活用
 - ・ 導入時の I C T 活用で，学習課題を把握できるか観察する。
 - ・ 書画カメラを活用して発表することができるか観察する。
 - ・ ビデオ視聴によって思考が深められるか観察する。